

ワタゲハナグルマについて

何年か前から気づいていた徳丸6丁目の高山公園に咲く黄色い花は、遠目にはタンポポそっくりに見え、そのまま見過ごしていたが、今年は大分群落が大きくなり（写真1）何か違うように思えて目近に眺めると、似て否なることが分かった。花弁は少し厚くてまばらな一重で、少し下に反り返っており、セイヨウタンポポとは大分違う。総包はカントウタンポポなどに似てそり返えられない。花茎はやや白く、縦に皺があり1ミリ以下の短い棘がある。葉はタンポポに似た形だが厚くて裏が白いピロウド状である。一株試料を採取したところ、ジシバリ（ニガナ属）のような地際を這う茎で繋がっており、一節ごとに根を出し株に生長している（写真2）。花後の種には綿毛はなく、結実した種は少ないようで、繁殖は種よりもランナーによる方が多いと思われる。いずれにしてもタンポポのように遠くまで種を飛ばす特技はない。

手持ちの図鑑には、この草が載っておらず、赤塚植物園にサンプルを持ち相談に行ったところ、近藤さんもこの草に気づかれており、記載した図鑑も探されてあった。

名前は表記のとおりで、綿毛花車とも書く南アフリカ原産のアルクトテカ（*Arctotheca*）属・キク科の多年生植物だった。

日本に入って来たのが比較的遅くて、古い図書には載っていない。インターネットで検索しても10件程度と少なく、説明記事も簡単なものが多い。花期は3月から10月とセイヨウタンポポ程ではないがかなり長い。

1992年発行の神奈川県植物誌調査会会報に、宅地造成地などで採取したとの記事が古いようだ。HPでは2002年以降に撮影された写真しか出ていない。畦や土手などのグラウンドカバーに利用されているらしいので、渡来したのはそれよりは前であろう。高山公園での群生状態からも、グラウンドカバーとして使うには適材のようだ。

名前にワタゲツルハナグルマと「ツル」の文字が入った資料も見受けられるが、植生からうなずける。なお、植物園に持参したサンプルは、鉢植えにされ事務所前に提示してあるので、来訪者は見る事が出来る（猪鼻 昭二）。

